

## 点検・評価シート

評価 A：期待以上 B：期待どおり C：やや下回る D：期待以下

番号	事務事業名	事業の目的	事業内容	決算額	事業の成果と課題	評価・コメント
1	特別支援教育	1・児童、生徒の適正な就学  2・教育上特別な支援を要する児童生徒の就学支援	1・教育支援委員会による対象児童、生徒の適正な就学についての検討 2. 支援を必要とする児童生徒の就学支援。臨時講師 小学校5名 中学校1名	14,999,000	立科町教育支援委員会を開催し、保護者より申込みのあった児童、生徒について適正な就学を図った。 対象となる児童、生徒が増加傾向にあり、引き続き支援員の確保、幼児期等からの相談体制の充実が必要である。 教育支援委員会開催回数 3回 判断件数 保育園児 2名 小学校児童7名 支援を必要とする児童生徒は、巡回相談、就園就学面談、個別支援計画を作成し切れ目のない支援を目指している。臨時講師を配置し、子どもの育ちにあった支援を行っており、他市町村に比べても手厚い支援を実施している。	A  町独自で手厚い支援を行っている。
2	不登校対策事業	不登校及び登校をしぶりがちな児童生徒の登校意欲の向上を図る	支援を必要とする児童生徒の学習活動等のサポート。臨時講師 中学校1名	3,002,000	不登校の理由は様々であり、また、解消に繋がる糸口も児童生徒により異なる。不適応な部分に対応する支援講師を配置することにより、きめ細やかなサポートができ、不登校対策に寄与している	B  引き続き力を入れて行って欲しい。
3	立科教育の推進	すべての子どもたちに「生きるちからをつける」ことを目標に、保・小・中・高が連携しTT授業や特別支援教育、学校間連携等の事業を行う。	算数、数学の学力向上のため小・中・高それぞれに加配教員の配置。異校訪問によるTT授業の実施。  コミュニティスクールの実施	9,792,000	学校間の理解が進み、課題となる点が共有でき、課題解消に向けた指導方法を探ることができた。NRT検査結果を利用した学年ごとの到達度を調べ授業改善の方向を指し示すことができた。 全国学力テストの結果では、継続的な学習支援で算数の学力の向上がみられる。 コミュニティスクールと連携し、地域と関わりをもった学習に取り組むことができた。	B

4	地域高校育成事業	蓼科高校の存続と育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通学バス運行補助</li> <li>・運動部活動補助</li> <li>・学校広報紙作成</li> <li>・学習塾運営等の実施</li> </ul>	20,756,724	<p>3方面からの通学バス運行により他市町村からの入学者数は増加しているが、立科中学校からの入学者の減少が課題となっている。また、利用者数によっては、運行経路の途中から増発便が必要となり、資金の工面が課題である。</p> <p>学習塾を開設し、高校の魅力づくりの一助となるよう支援している。(対象は蓼高生、立中生徒)</p> <p>・通学バス運行 194日 ・利用者 田中線 44名 小諸線 33名 中込線36名 (利用者数は最大値)</p>	A
5	学校施設整備事業	<p>1 安心、安全な学校生活の提供</p> <p>2 教育環境の整備</p>	<p>(小) 防火シャッター修繕 給食下処理室エアコン設置 門柱転倒防止、車止め設置</p> <p>(中) 防火シャッター修繕 保健室エアコン設置 体育館屋根棟木補修</p>	9,737,560	<p>小中学校の防火シャッター修繕工事を行い、児童生徒の安全を図った。</p> <p>小学校給食下処理室、中学校保健室へエアコンを設置し、教育環境の改善を図った。</p> <p>開校以来町道であった小学校敷地内道路が、学校用地となったため、車両進入禁止の車止めを設置するとともに、門柱の転倒防止工事を行い、児童の安全確保に努めた。</p> <p>中学校体育館屋根の補修は、台風19号の被害。他に学校施設の被害はなかったが、小中建築後数十年経過しているため、今後の災害にどのように対応していくかが課題である。</p>	B
6	小中学校空調設備設置事業 (平成30年度繰越事業)	教育環境の整備	小中学校普通教室、特別教室へエアコンを設置	208,731,600	<p>平成30年度の国交付金事業「冷房設備対応臨時特例交付金」を活用し、教室にエアコンを設置し、児童生徒の教育環境の改善を図った。</p> <p>小学校 普通教室 16 特別教室 9 中学校 普通教室 8 特別教室 20</p> <p>竣工 小学校 令和元年8月16日 中学校 令和元年8月19日</p> <p>学校の協力により、工期内に工事を完了することができた。</p>	B

7	ALT事業	英語の学力向上、グローバルな視点の涵養	英語指導助手による英語授業	6,300,000	ALTによって特に発音・リスニングの効果が期待できる。また、異文化に対する興味の発揚にもつながっている。中学校にオレゴンからの親善大使1名と、小学校に派遣会社1名の計2名体制とした。	B
8	就学援助事業	経済的理由で就学困難と認められる児童、生徒への援助	経済的な理由で学校諸費用に困っている保護者へ、予算の範囲で援助を行う	2,084,404	保護者より提出のあった申請書について、税、福祉関係の各調査を行い、教育委員会の承認を得て可否を決定している。新入学児童生徒に係る学用品費の入学前の2月支給も実施している。 対象者が減少傾向にある。 平成30年度 小学校 18人 中学校 17人 令和元年度 小学校 15人 中学校 13人	B
9	児童館運営事業	放課後児童の安全確保と子育て支援を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>放課後児童クラブ運営</li> <li>放課後子ども教室運営</li> <li>子育てママの支援</li> </ul>	9,818,932	児童館来館者数 15,887人 児童クラブ登録者 25人 放課後児童クラブは午後7時まで共働き家庭等の児童を預かり、安心、安全な子どもの居場所を確保している。 放課後子ども教室開催数延べ111回。子どもたちに様々な体験を与えられた。講師の確保が問題となっている。 未就園の親子を対象とした事業を年63回開催し、子育て中の親子への支援を図っている。	B 他市町村にない取り組みを行っている。
10	保育園運営	保護者の就労等により家庭での保育が難しい子どもの保育を行い、健全な心身の発達を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>入園児の年齢別保育の実施</li> <li>一時保育、休日保育、延長保育の実施</li> </ul> <p>入所児童数 176名 (令和2年3月)</p> <p>立科教育の基礎作りとなる保育園では幼稚園的要素を加味した保育の実施</p>	71,061,397	幼児教育として「生きる力」の基礎「知」「徳」「体」を培っている。運動あそびでは、身体機能の向上はもとより考える力、友だち関係や社会性が育っている。英語であそぼうでは、ALTを活用した外国文化に触れ身近な英語を学んでいる。小学校と円滑な交流、連携が図られ、子どもの学びと育ちが繋がってきている。 10月からの幼児教育・保育の無償化により、保護者の負担軽減が図られた。	B

11	社会教育事業	社会各層への教育啓発活動	少年教育・女性教育・すずらん学級など	4,296,678	<p>少年教育:わら細工・ケーキ作り等各種講座開設 新しい発見や体験により学ぶ楽しさが身に付き、児童の健全な成長につながっている。また、親子で学ぶことにより、親子の絆が深まった。</p> <p>・開催回数:4回 ・延参加者数: 88人</p> <p>すずらん学級:町民一般向け、講演会やスポーツ教室、研修旅行、郷土史教室など、中高年の生甲斐づくり、世代間交流促進を図った。例年同じようなテーマで実施されているが、参加者増を図るためにも外部の出前授業を利用したり、興味を引く内容を検討する必要がある。(台風 19 号によりすずらん学級ハイキング中止、新型コロナウイルス感染症防止により2回中止)</p> <p>・開催回数:8回(8回) ・延参加者数:326人(333人)</p> <p>※( )は前年 H30 の数値、以下同じ</p>	B
12	青少年教育事業	立科町の子どもたちの剛健な肉体、健全な精神、規律ある子供たちの育成	スポーツ少年団、スキー教室、健全育成推進センター、少年スポーツ大会など	3,413,136	<p>スポーツ少年団の活動や、青少年を対象としたスポーツ大会等の開催は青少年の健全な成長につながっていると考えるが、少子化による選手集めは課題となっている。</p> <p>スポーツ少年団 38人(51人)、サッカー教室 36人(40人)、スキー教室 34人(22人)、脳力向上スポーツ教室 67人(67人)</p>	B
13	社会体育事業	町民の体力向上、技術向上、町民同士の親睦を深める	各種スポーツ教室、女神湖歩け歩け大会、冬季スポーツ大会、など	2,391,474	<p>28年度から始めたフラバールバレー大会は参加者が徐々に増え、現在 29 チーム(29 チーム)の参加となった。</p> <p>・歩け歩け大会 参加 162人(125人)</p>	B
14	教養文化活動	図書室運営	読書活動の推進	3,180,891	<p>町民の生涯学習の場として、情報の提供を行い、地域を支える情報拠点、交流の場となっている。規模は小さいが、利用者のニーズを把握できるよう工夫しているが、利用者延べ人数は減少している。</p> <p>・来館者数 5,132人 (5,771人)、貸出冊数 7,465冊 (8,423冊)</p>	C

15	各種行事 中央公民館活動	生涯学習の場の提供と、 地域住民の交流活性化	成人式・文化展・文化祭(旧称:芸 能グループ発表会)等 中央公民館での生涯学習講 座の開設	383,133	学習内容は、社会の多様化により変化しているた め、なるべく町民のニーズに合わせた開催としている。 また、少子高齢化をはじめとする社会環境変化に伴う 地域住民のコミュニケーションづくりに力を入れている。 多くの住民が気楽に参加できる講座等を計画して いる。	B
16	文化財保護事 業	町内の文化財(特に笠取 峠のマツ並木)の維持・管 理・保存。有効活用。	松並木は保存管理計画に基づき、 害虫防除薬剤散布。次世代松の 育成	2,655,391	樹勢回復事業を平成22年度から継続して行っており、 今回も土壌改良などを実施した。また、枯れた松の 伐倒や、次世代松の苗の育成等を行っている。現存す る松が年ごとに減少している。今後も、アカマツの状態 を樹木医と観察しながら継続的に実施していく。会議 年1回。 (元年度は3本伐採、現存150本)	B
17	人権教育推進 事業	一人ひとりの人権が尊重さ れる地域づくり	人権意識の高揚を図るため、分 館人権教育指導者養成講座を2回 開催するとともに、各分館におい ての人権学習会、人権を考える町 民大会などを実施。 また、学校、企業等ありとあらゆる 場において人権教育啓発を推 進する。 ・人権教育推進協議会 ・人権を尊重する企業連絡会 ・保育園・学校人権教育連携 ・男女共同参画推進委員会	3,653,877	人権意識の高揚と啓発のため、町民に対しては各地 区指導者への養成講座、各分館での人権学習会、人 権を考える町民大会を開催すると共に、保育園・小 ・中・高等学校合同で人権教育研修会を行い、幅広く人 権教育を進めることができた。 ・人権学習会開催分館全 33 分館 参加者数 413 人 (397 人) ・人権を考える町民大会 参加者数 114 人(113 人) ・保育園、学校人権教育研修会 参加者数 75 人(88 人) ・人権を尊重する企業連絡会 35 事業所(35 事業所) 参 加 分館人権学習会、人権を考える町民大会の参加者の 増は課題 ・男女共同参画長期プランⅣ(令和2～6年)を策定	B

18	国際交流事業	姉妹都市オレゴン市との友好を深め、国際的に活躍できる人材の育成に努める。	1974年に立科町はオレゴン市と姉妹都市提携を結び、以降、立科中学生の派遣事業を隔年で実施している。令和元年8月には、姉妹都市提携45周年記念事業として、オレゴン市からの訪問団のホームステイの受け入れをした。	179,763	令和元年度は、町民祭たてしなえんでこの日程に合わせ、オレゴン市から4名の訪問団のホームステイの受け入れをした。えんでこや歓迎会等をおして、多くの町民の皆さんとの交流が図られ、お互いの親睦を深める事業となった。 ・令和元年8月2～4日の3日間	B
----	--------	--------------------------------------	--	---------	---	---